JAふくしま未来 福島地区本部【果樹防除情報 3月号】

ふ未福営発第852号
令和6年2月29日

◎休眠期防除は越冬病害虫の初期密度を低下させるために重要な防除です。今後の天候に注意し、遅れないよう適期に実施しましょう!!

今回の防除情報については下記の内容にてお知らせさせて頂きます。なお、防除内容の確認を行い作成しておりますが、皆様におかれましても防除の際には、防除暦を参照するとともに使用農薬に記載されている希釈倍数等の内容を必ず確認してください。

現時点での本年の発芽予測は、各樹種ともに平年に比べ早い予測となっています。なお、この時期は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移によって大きく変動することがありますので、今後の天候に注意しながら適期防除に努めて下さい。

発芽予測　〔予測方法:発育速度(DVR)モデルによる発芽予測　2/28現在　果樹研究所〕

	発芽日		今後の気温経過による予想日		
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い
あかつき	3/16	3/24	3/21	3/19	3/26
幸水	3/22	4/1	3/31	3/26	4/6
ふじ	3/17	3/27	3/26	3/23	3/31

注意事項 ： 展着剤は、各樹種共通でアイヤーエース10,000倍又はラビデン3S 10,000倍を使用する。(水100ℓ当り10cc)

【もも】(防除暦 23頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度	SS散布量
1	発芽前、りん片のゆるむ頃まで (3月10日～20日頃)	縮葉病 黒星病 アブラムシ類 カイガラムシ類	1. ハーベストオイル 50倍 (2ℓ) 2. 石灰硫黄合剤 10倍 (10ℓ) または 1. ハーベストオイル 50倍 (2ℓ) 2. チオノックフロアブル 500倍 (200cc) 3. アプロードフロアブル 1,000倍 (100cc)	300ℓ
		1. アプロードフロアブルは石灰硫黄合剤と使用しない。		

【りんご】(防除暦 49頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度	SS散布量
1	発芽1週間前まで (3月10日～20日頃)	ハダニ類 カイガラムシ類 (腐らん病)	1. 機械油乳剤95 25倍 (4ℓ) 2. アプロードフロアブル 1,000倍 (100cc)	250ℓ
		1. 近年リンゴハダニが増加しているので、粗皮削りが終わってから温暖無風の日に散布する。 **2. 前年、腐らん病の発生が認められた園では、発芽前にベフラン液剤500倍(200cc)を散布する。**		

なし【幸水・豊水・あきづき・秀玉・新高・王秋】(防除暦77頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度	SS散布量
特別散布	発芽10日前まで (3月15日～20日頃)	樹上越冬病害虫 黒星病 ハダニ類・カイガラムシ類	1. 展着剤 2. 石灰硫黄合剤 10倍 (10ℓ)	250ℓ
		1. 粗皮削り後、温暖無風の日に散布する。 **2. 前年、ハダニ類、カイガラムシ類(サンホーゼカイガラムシ)の多い園は石灰硫黄合剤を散布した2～3日後に機械油乳剤95 25倍(4ℓ)又はハーベストオイル50倍(2ℓ)を使用する。カイガラムシ類の多い園ではアプロードフロアブル1,000倍(100cc)も使用する。但し、機械油乳剤95とハーベストオイルは樹勢の弱い樹には使用しない。** **3. 前年、ニセナシサビダニ等の越冬病害虫が多発した園では散布する。** 4. 石灰硫黄合剤とアプロードフロアブルは同時に使用しない。		

なし【二十世紀・南水】(防除暦 86頁参照)

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度	SS散布量
特別散布	発芽10日前まで (3月15日～20日頃)	樹上越冬病害虫 黒星病 ハダニ類・カイガラムシ類	1. 展着剤 2. 石灰硫黄合剤 10倍 (10ℓ)	250ℓ
		1. 粗皮削り後、温暖無風の日に散布する。 **2. 前年、ハダニ類、カイガラムシ類(サンホーゼカイガラムシ)の多い園は石灰硫黄合剤を散布した2～3日後に機械油乳剤95 25倍(4ℓ)又はハーベストオイル50倍(2ℓ)を使用する。カイガラムシ類の多い園ではアプロードフロアブル1,000倍(100cc)も使用する。但し、機械油乳剤95とハーベストオイルは樹勢の弱い樹には使用しない。** **3. 前年、ニセナシサビダニ等の越冬病害虫が多発した園では散布する。** 4. 石灰硫黄合剤とアプロードフロアブルは同時に使用しない。		

【　ぶ　ど　う　】（防除暦 123頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度	SS散布量
1	萠芽前 （3月下旬）	晩腐病 黒とう病・褐斑病 ハダニ類	1．展着剤 2．ベフラン液剤　250倍　（400cc） 3．石灰硫黄合剤　20倍　（5ℓ）	200ℓ
		1．ベフラン液剤と石灰硫黄合剤の原液同士での使用は沈殿を生じるのでベフラン液剤の希釈液を作り、その中に攪拌しながら石灰硫黄合剤の順で調整する。 2．前年、ブドウサビダニの発生が多かった園では石灰硫黄合剤を必ず散布する。 3．せん定枝は、ブドウトラカミキリの発生源となるので、必ず園外で処分する。		
特別散布	休眠期	ブドウトラカミキリ	1．トラサイドA乳剤　200倍　（500cc）	200ℓ
		1．晴天時を選んで、丁寧に散布する。		

【　お　う　と　う　】（防除暦 143頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度	SS散布量
1	発芽前 （3月中旬）	樹上の越冬害虫 カイガラムシ類 （炭そ病）（灰星病）	1．ハーベストオイル　50倍　（2ℓ） 2．アプロードフロアブル　1,000倍　（100cc）	300ℓ
		1．カイガラムシ類の重要防除時期なので遅れないように散布する。 2．カイガラムシ類の寄生している枝、幹をワイヤーブラシ等でこすり落としてから、温暖無風の日に散布する。 3．灰星病や炭そ病防除のため樹上のミイラ果や枯死枝を除去し、適切に処理する。		

【　か　き　】（防除暦 156頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度	SS散布量
1	発芽前 （3月下旬）	カイガラムシ類 （ヒメコスカシバ）	1．機械油乳剤95　25倍　（4ℓ） 2．アプロード<u>水和剤</u>　1,000倍　（100g） または 1．ハーベストオイル　50倍　（2ℓ） 2．アプロード<u>水和剤</u>　1,000倍　（100g）	250ℓ
		1．ヒメコスカシバの発生が見られる場合は、発芽前にトラサイドA乳剤200倍(500cc)を、薬液が芽にかからないように注意しながら、主幹部、主枝及び亜主枝の分岐部に散布する。		

【　す　も　も　】（防除暦 167頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度	SS散布量
1	発芽前 **（3月上旬）**	ふくろみ病 カイガラムシ類 （コスカシバ）	1．ハーベストオイル　50倍　（2ℓ） 2．チオノックフロアブル　500倍　（200cc）	250ℓ
		1．カイガラムシ類の発生が多い場合には、ワイヤーブラシなどでこすってからアプロードフロアブル1,000倍（100cc）も散布する。 2．コスカシバの発生が多い場合は、トラサイドA乳剤200倍（500cc）を樹幹部及び主枝に手散布する。		
2	開花前 **（3月下旬）**	ふくろみ病	1．展着剤 2．チオノックフロアブル　500倍　（200cc）	250ℓ

【　う　め　】（防除暦 178頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度	SS散布量
1	休眠期 （3月上旬）	カイガラムシ類 （コスカシバ）	1．石灰硫黄合剤　10倍　（10ℓ）	350ℓ
	1．カイガラムシ類の発生が多い場合は、ワイヤーブラシなどでこすってから散布する。 2．コスカシバの発生が多い場合は、ラビキラー乳剤200倍（500cc）を枝幹部へ手散布する。			

【ネクタリン】（防除暦 187頁参照）

散布回数	散布時期	対象病害虫	薬剤の種類及び濃度	SS散布量
1	発芽前 3月10日 ～20日頃	縮葉病 カイガラムシ類 （コスカシバ）	1．ハーベストオイル　50倍　（2ℓ） 2．石灰硫黄合剤　10倍　（10ℓ） または 1．ハーベストオイル　50倍　（2ℓ） 2．チオノックフロアブル　500倍　（200cc） 3．アプロードフロアブル　1,000倍　（100cc）	300ℓ
	1．ネクタリンは発芽期が早いので、散布が遅れないように注意する。 2．アプロードフロアブルは石灰硫黄合剤には使用しない。 3．前年コスカシバの防除を実施しなかった園では、トラサイドA乳剤200倍（500cc）を枝幹部へ手散布する。			

★農薬散布は、無風又は風の弱いときに行うなど、近隣に影響の少ない天候の良い日を選んで散布しましょう。散布時間帯についても通学や出勤時間帯は避け、住宅地に混在している園地では十分注意して散布をお願い致します。

※不明の点がありましたら、各地区指導員にお問い合わせください。